

## 賛成9人、反対7人。異例の百条委設置を決定！

鯖江広域衛生施設組合が8月に新ごみ焼却施設整備運営事業の落札業者との本契約を多数決で可決したにも関わらず、市議は疑惑があると百条委を設置。その根拠が「怪文書」というから頂けない。

# 市民無視のとんだ茶番劇

## 2年前の市長選のしこりを引きずり大混乱の鯖江市会

### 市民創世会と志清同友会の対立

鯖江市議会は9月22日の定例会最終日、鯖江広域衛生組合（管理者・佐々木勝久市長）が同市西番町で老朽化に伴う建替えを計画しているごみ焼却施設建設をめぐり、「1000条調査特別委員会」（百条委）の設置を求める動議を賛成9人、反対7人で可決、同日付で百条委が設置された。

来年3月の定例会市会を目的に調査報告をまとめる方針を決めた。調査事項は、入札を巡り管理者側が事業者に不正に関与したとされる疑義と、2市議と組合事務局職員による他市町議員への働きかけをした事案に関する2点。

て以来2度目。最近では、令和元年9月に敦賀きらめき温泉リラ・ポートの指定管理に係わる件に関し全会一致で可決、敦賀市議会史上、初めて設置された。

鯖江市会では現在、欠員1の9人。百条委設置に賛成した議員は、木村愛子、丹尾広樹、水津達夫、大門嘉和、空美英議員の「市民創世会」5人と公明党の遠藤隆、奥村義則議員、共産党の菅原義信議員、民主クラブの山本敏雄議員の

市民創世会の水津議員が百条委設置の緊急動議を提出し、市会が真つ二つに割れた。その背景にあるのが、2年前の市長選。田村康夫氏を推した市民創世会と佐々木市長を推